

第34号

平成19年  
9月20日

題字  
植木満名誉会長



発行所

土浦一高東進会

茨城県立土浦一高  
進修同窓会  
東京支部

事務局 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館4階  
宮崎法律事務所 TEL 03-3221-3711 FAX 03-3221-3713  
ホームページ [http://www.geocities.jp/t\\_toshinkai/](http://www.geocities.jp/t_toshinkai/)

東進会 平成19年度の総会・講演・懇親会は6月16日に開催  
本会の規約を19年ぶり全部改正 バイオエタノールについて雨貝二郎氏が講演



会場を盛り上げた昭50年卒の当番幹事20名の皆さん 昭27年卒の先輩や大野会長、長戸副会長と一緒に  
(写真提供：昭32年卒 服部或雄氏)

当日は梅雨入り後とは思えぬ好天にも恵まれ、総会等の出席者は来賓3名を含め134名となった。これは当番幹事のネットワークを生かし、同日に昭和50年卒の同期生会も都内で開催するなど、創意工夫をこらした世話役による企画の成果である。

最初の行事は、昨年と同じ母校から招請した吹奏楽部の単独演奏で始まり、応援指導部との合同演技演奏で終わった。

総会においては、例年どおり前年度決算・本年度予算が承認された。

次いで昭和63年の制定以来、19年ぶりとなる規約改正の審議が行われた。これは、前年度に可決、実行済みの役員改選など、東進会の発展しつつある現状に規約をあわせようという契機から起案作業が始まったものである。

その結果として、題名を「進修同窓会東京支部規約」から「土浦一高東進会規約」にすること、会員の資格要件を緩和することなど全面的な改正案が確定し、新旧規約の対照表として、事前に会員に配布されていた。これに関し総会で賛成多数・反対なしで議決され、即日施行となった。この施行された東進会規約は、本号第8頁に掲載してある。

引き続き、通産省出身、ダイエー社長などを歴任し、現在は日本アルコール販売(株)会長兼社長の雨貝二郎氏(昭39卒)による講演は、分かりやすいお話であり、その内容を本号の第4頁と第5頁に掲載しております。

懇親会におけるスライドショーとサルサ・ダンスはともに好評で、昔を思い出したり、若返って実際に楽しんだりする会員が多かった。懇親会の最後は校歌斉唱で締められた。

当番幹事は大挙20名が参加、随所で進行に気配りしながら自らも楽しむ姿勢が見受けられた。終始、司会役を務めた藤田加奈子さん(茨城放送アナウンサー)に対しては、さすがプロとの賞賛の声があがっていた。当番幹事の皆様、高木代表はじめ、準備段階から当日の運営までご苦労さまでした。



会場風景 1



イベント全部の司会進行  
当番幹事 藤田加奈子氏



受付 写真撮影



受付 出席確認



応援指導部の熱演



吹奏楽部の演奏



決算・予算 幕内副会長



総会挨拶 大野会長



開会宣言 君山副会長



吹奏楽部と応援指導部の  
先生に大野会長から謝礼



来賓挨拶 県東京事務所所長  
林 孝 様



来賓挨拶 進修同窓会会長  
平田 公敏 様



来賓挨拶 土浦一高教頭  
岡崎 尚俊 様



規約改正 宮崎幹事長



会場風景 2



乾杯時の挨拶 茂在大先輩



懇親会開始の挨拶 長戸副会長



雨貝二郎氏による講演



懇談で賑わう会場



サルサダンス 左側の先生と楽しむ会員

久しぶりか初めて出席した会員の皆様 それぞれ挨拶



入江俊昭氏

吉田千雅子氏

最若手

櫻井成一朗氏

瀬戸節子氏

西尾広介氏



お元気な長老会員の皆様



閉会の挨拶 渡邊副会長



最後の校歌合唱



応援指導部OBの校歌演技

## 特別講演

バイオエタノール  
について

雨貝 二郎 氏(昭39卒)

ただいまご紹介いただいた雨貝です。私は土浦で生まれ土浦小、一中、一高と18歳まで土浦におり、それから東京に出て40数年になります。その間2年間だけイギリスで過ごしたことがあり土浦と東京が私の活動範囲です。

ところで本日の話題であるバイオエタノール、最近新聞で何かとご覧になることが多いと思いますが、バイオエタノールのバイオとは生物、エタノールとは学術用語でも何でもなくアルコールと全く同じ言葉です。つまりバイオエタノールとは植物から造られた、発酵で造られたアルコール、こういうものです。

植物以外のアルコールというのも実は世の中にございまして、日本で出回っているアルコールの四分の一位はナフサ、エチレンから、石油から造られた合成アルコールというものです。アルコールというは何千年も前から人間になじみの深いものですし、また私自身にとつても何十年前から親しんだものです。

## (アルコールの三つの用途)

一つは飲料これが一番馴染みの深いアルコールです。日本酒はもとよりアブサン、ビール、ウイスキーいろんなものがあります。二番目には工業用アルコールの分野で整髪料とか化粧品とかあるいは普通に殺菌剤にも使われています。溶剤にも使われており、もちろん味噌、醤油にも使われています。日本においては、この二つが専らです。

ただ世界をみますと第三の用途があります。それが燃料用です。日本でも実は戦前に飛行機を飛ばすためにアルコールを使おうではな

いかという構想があつて、そういう意味でそれゆえ今の経済産業省、当時の商工省がアルコールは専売だということで、当時軍需省だったかもしれないませんが、専売制の下で醸造を始めた。ところが日本では芋、それから麦とか米からアルコールを造るのは非常に非効率的だったので、いつのまにか廃れて、今では、時折新聞に出ています日本アルコール産業という会社が年間2000klほど糖蜜からアルコールを造っているのが現状です。

## (バイオエタノールの前途)

これからの世界的な用途は燃料としてアルコールを使おうという動きになっていきます。この理由は三つ位あるかなと思います。一つは原油が非常に高くなってしまったということ、少しぐらい高いコストをかけてもエタノールを造って採算が合うというのが一つあります。また経済原理に加えて政治的にも、石油を産出している地域は中東がシェアを占めておりますが、米国の大統領は米国の国民は石油依存症になっていっているのではないか、これでは国の安全は守れない、こういう判断から石油への依存度を下げようという強い政治的な意志を発揮しています。これが世界に伝染している状況にあると思います。それから三番目が環境としては地球温暖化の問題があります。地球温暖化対策としてバイオエタノールの利用が非常に効果的だということ。これが基本になりますので、一寸、バイオエタノールを燃やすとなぜ地球環境に優しいのか、温暖化対策になるのかについてお話しします。アルコールを燃やすとガソリンと同じようにCO2を発生します。この点については全く他のものと同じです。燃やせば必ずCO2が発生します。石油との大きな違いはたった一つです。石油は地球が何億年もかけて造り上げた或いは地底の中に保存していた、それを人類がとり出して燃やして地球の表面にまき散らしているだけです。石油の利用はこの百年か二百年かの間に急激に伸びたんです。それ

で、今地球に存在が確認されている石油の量は、例えば富士山全部を大きな杯としますとそれがまあ底の方に六合目位入ったらもうなくなります。その程度の量しか残っていません。地下に炭酸ガスが折角固定化されて埋もれていたものを地上に持ち出して炭酸ガスを増やしている。これが石油消費です。それが地球温暖化の原因です。

他方、バイオエタノールは発酵です。でも芋でも或いはワインからも葡萄からも造れます。また、キャッサバとかサトウキビなどからも造られますが、これは、地球上にあるCO2を一切増やしません。なぜならそれら原料は、光合成という、昔高校時代習ったことがあると思いますが、植物は太陽エネルギーを使って水を分解し、それからまた空気中のCO2を取り込んでブドウ糖に変えているわけです。それを発酵させて燃料に使うのでCO2は発生させたとはいっても、その根っここの原料となる炭素、これは地球上にあるCO2なのです。ですからバイオエタノールをいくら燃やしても地球上にあるCO2の量は不変なので温暖化には何の悪影響を与えない、そこで世界がバイオエタノールに着目しているわけです。

## (世界のエタノール利用状況)

米国はブッシュ大統領が昨年、今年と2年続けた年頭教書の中で、もう石油依存症を米国民は改めようではないかという強い呼びかけをしました。そして一言で言うと「20イン10」という標語を作り、これから10年間でガソリンの消費量を2割削減したい、こういう政策目標をはっきりと打ち出しました。また欧州では既にエタノールを使って自動車を走らせています。またアジアの近隣諸国を見ますと中国、韓国、タイ、シンガポール、フィリピン、インドネシアとあらゆる国がガソリンにエタノールを混ぜて走らせています。また南米の方ではブラジルが一番進んでいます。ブラジルで走っている或いは今売られている車の7/8割はガソリンだけでも

エタノールだけでも走れるFV、フレキシブル・フェュエル・ビークルという車になっています。そういう自動車をも米、ドイツのカーメーカーだけでなく日本のホンダ、トヨタ、或いは三菱も発売しています。世界がみんな化石燃料、石油だけで自動車を走らせるのは地球環境によくないと必死の思いでエタノールを混ぜた車を走らせています。一言で言うと化石燃料、石油とガソリンだけで自動車を走らせている主要国というのは日本だけです。非常に日本は遅れてしまったといえます。

こういう状況の中でこの6月初めにはドイツのハイリゲンダムでサミットが開かれ、地球上のCO2の量を半分減らさなければ地球は壊れてしまう、こういう世界各国のリーダーの中で共通認識が生まれたと思います。そのために世界がこぞって何をやっていくかという具体的なプログラムをこれから考えていくことになりました。その集大成が来年の洞爺湖サミットでまとめられると思います。世界のリーダーが日本に集まります。そこで日本がどういうリーダーシップをとれるか、21世紀の日本を占う最初の試金石ではないかと思えます。

## (日本の将来)

では日本で、これからどういふふうバイオエタノールが利用されていくか、簡単に予測を述べたいと思います。地球温暖化問題は地球温暖化問題というのは、CO2を地球上にばらまくのを抑制しようというのですから、エネルギー政策と裏腹の問題です。エネルギー問題の中でエネルギー消費部門は、産業部門、それから家庭とか事務所とか、それと輸送部門という三つの部門に分けられます。

日本の産業部門は世界で一番エネルギーを効率的に使っています。省エネルギーが進んでいます。世界一、だからこそ競争力が、産業の競争力があるわけです。また燃料転換も進みました。かつては石油に100%依存していた産業活動が今では石炭或いはいろんなエネ



ルギーにかなり多様化しています。それから産業の電気というのは、原子力を活用していません。原子力はCO2を一切発生しません。それからまたITの普及に伴ってオフィスからの需要、家庭での冷暖房或いはテレビの待機電力の消費量は非常に高まっています。これは文化的な生活を営むために必要最低限で必要なものは今後も需要をカットするのはなかなかできないと思いますが、ただライフサイクルをできるだけ省エネルギー型に変える必要があるかもしれません。他方において輸送分野、ここが一番遅れています。世界で化石燃料だけで自動車を走らせている国は日本だけだということも、もう一度、肝に銘じて是正処置、政策的にもバイオエタノールの利用が必要になってきます。

この点で、今年の5月には経済産業省の方から2030年を目標として輸送分野の石油依存度を今の100%から80%まで下げるというビジョンが出されました。これに則ってこれからは進んでいくと思います。またブラジルにおいては日本に対し安定供給を約束しつつあります。今日本でもガソリンの(年間)需要は6000万kl、これを世界が使っているように1割エタノールを混ぜると600万kl必要になります。この600万klをおそらくブラジルから輸入することになると思いますが、今、石油会社の方は、まだまだそこまで至っておりませんが、10万klか20万klを消化するのに精一杯努力しており、いずれ600万klをブラジルから輸入する日がくると思います。その準備に日本の三井物産、伊藤忠、日商岩井という総合商社も取り組んでいますし、また私も日本アルコール販売もそういう一翼を担いつつあります。

ブラジルというのは昼と夜が日本とは全く逆で、そういう遠い国から大丈夫かとか心配する向きもありますが、ひとつご紹介したいのは、私が1年ほど前にブラジルを初めて訪問した時、ニッケイ新聞から取材を受けまし

た。ああ日本経済新聞、あなたは遠い国までちゃんと活動しているなあと感心していたら、日系人のための日系新聞だったのです。それ位、ブラジルは遠いが日系人ルートを通じて日本に親近感を持っています。信頼できる国だと思っています。中南米の中では社会主義がはびこっていて、米国大統領も自分の国の裏庭に社会主義国家が建設され手を焼いています。その中で一番信頼できる国としてあげているのがルーラ大統領率いるブラジルです。そう意味で日本としてはこれからブラジルとの関係を密接にしてエタノールを安定的に日本に持ってくるというのが大変重要になってきますし、是非これから1、2年のうちにそういう方向を固めなければならぬと思っ

ている次第です。因みに来年の西暦2008年が移民100周年の年になります。今から約100年ほど前に神戸港からブラジルのサントス港に向け最初の移民船が渡航したわけです。茨城からも行った方がいらつしやいます。そういう次第でこれから1年間、大変大事な時期になると思いますが、政治のなかでは、2週間ほど前だったと思いますが、小泉前総理が元環境庁長官と「環境を語る」という会を開き、その場でこれからの政治家は環境問題と取り組まなければ政治家の資格がない、と発言されています。今から10数年前に竹下登さんも、環境を語らずして政治家ではない、とおっしゃっていました。政治の世界でもそういう動きがはつきりしてまいりました。

しかし私は最後に、バイオエタノールがガソリンの中に添加されて利用されるかどうかは、国民、ドライバー一人一人の自覚にかかってくるのではないかと思います。ぜひ車を運転なさる皆さん、日本だけが化石燃料で自動車を走らせている、地球は今、悲鳴を上げている、そういう中で少しでも緩和するためにバイオを混ぜたガソリンを使うのではないかと、このことを是非理解してお進みいただけたら大変有り難いと思います。

(文責 編集担当 酒井隆二)

**東進会総会に参加して**  
当番幹事の皆さんから

▼土浦を離れてすでに30年。東進会総会では同じ学び舎で3年間を過ごした先輩、後輩の皆様と本当に楽しいひと時を過ごさせていただきました。総会当番幹事という事で集まった12名の仲間と、ひとつの目標に向かって計画を進めた4ヶ月は充実した日々でした。

このすばらしい機会を与えてくださった先輩方に感謝するとともに、これからの東進会のますますの御発展をお祈りいたしております。ありがとうございました。

(内田敬子)

▼東進会のお蔭で多くの同級生と久しぶりに会うことができました。東進会を今まで支えてきて頂いた先輩方に感謝しています。(小野村敏之)

▼もともと私共の学年は、東京・千葉在住の仲間が集まってはたびたび楽しんでいました。幹事をさせていたたきまして、例年以上に仲間と集まる機会が増え、楽しい夏となりました。これを機に、来年も是非参加させていただきたく存じます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

▼50歳の節目に、卒業生の一人として、楽しい時間を共有できたことを感謝しております。(篠原建次)

▼50歳を迎えた年に総会の幹事の大役を任されたことは一生の思い出となりました。いろいろと大変なこともありましたが、それぞれに楽しむ事ができました。この伝統を後進の方々にも引き継いで頂くことで、東進会が益々発展されますよう希望致します。機会を与えて下さった東進会役員の方々へ感謝致します。(清水信行)

▼仲間との準備作業はいい思い出になりました。打上げ会も行い、メンバーングリストも未だ健在です。先輩方が機会を作って下さったお蔭です。(高木恒英)

▼応援団の太鼓の音を聞いて、高校時代(ヘイムスリップ)しました。桜と旧校舎のスライドを見ながら、同期や先輩、後輩との和やかな話のりの中で、母校の良さに、あらためて、感慨にひたり

ました。(鶴町利地)

▼たぶん踊れる人はそんなにいないだろうし、女性の比率もひじょうに少ないというたいへん難しい状況の中で、しらけてしまっても仕方がないのかなとも思っていました。皆様がたいへん盛り上げてくれてほんと感動しました。先輩方の若さ、懐の広さ、優しさに乾杯!(花上克宏)

▼「東進会総会の当日を迎えるまで、まるで高校時代に戻ったような楽しさ。大勢の先輩方にお会い出来る、同窓生とは新たな出会いがありました。こんな縁に触れることが出来て、これからの時間に彩りが増えました。会を産み育て、こいつた縁を結ぶ機会を与えてくださった先輩の皆さん!本当にありがとうございました。(藤田加奈子)

▼卒業後32年、こころは高校生のまま、外見はりっぱな中年のおばさんになってしまいました。「自分が楽しめる東進会総会に」という気持ちで、幹事を引き受けました。同期生達と打合せの会を重ねるごとに、次々と新しいアイデアが出てきて、一高祭のりで本当に楽しい時間が過ぎていきました。

私達の提案にご理解をいただき、この素晴らしいチャンスを与えて下さった、東進会の先輩諸氏に感謝するとともに、土浦一高の卒業生であることに誇りを感じています。これからも土浦一高東進会の深い絆を大切に行きたい所存です。東進会をますますの発展をお祈りいたします。(星川美代子)

▼50歳という節目の年に、伝統ある会を企画することに参画でき、非常に楽しい思いをすると共に、思い出に残る出来事となりました。東進会の益々の発展を祈念いたします。(前野幸彦)

▼ひよんなことで幹事になり、今回総会に初めて参加させていただきました。何歳になっても、高校時代の仲間と会うと、心は高校生に戻れるんですね。楽しかったです。校歌は何十年ぶりでしたが、完璧に覚えていました。土浦一高の卒業生はみんな優秀なんだなああってあらためて思いました。(渡邊奈保美)



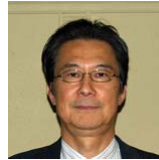
池和田 暁 (昭40)



伊藤 勝 (昭40)



飯塚 泰介 (昭41)



飯塚 哲哉 (昭41)



一条 敏夫 (昭41)



今泉 房子 (昭41)



太田 みち子 (昭41)



小野 利夫 (昭41)



桂 栄治 (昭41)



河合 隆 (昭41)



高山 了 (昭41)



中島 忠男 (昭41)



長戸 琴 (昭41)



初田 正雄 (昭41)



久松 信明 (昭41)



堀江 恵子 (昭41)



安井 恵子 (昭41)



山岡 憲 (昭41)



山村 章 (昭41)



木村 繁夫 (昭43)



鈴木 厚 (昭43)



幕内 邦夫 (昭43)



宮崎 好廣 (昭43)



柳沢 成二 (昭43)



渡辺 孝男 (昭43)



岡崎 孝宣 (昭44)



永井 博 (昭44)



猪俣 勝弘 (昭45)



黒田 吉男 (昭45)



出沼 善次 (昭45)



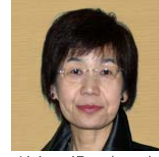
大熊 毅 (昭46)



小野 幹夫 (昭46)



小山田 淳子 (昭46)



結束 操 (昭46)



太田 滋徳 (昭48)



小坂部 充功 (昭48)



神立 哲男 (昭48)



君山 利男 (昭48)



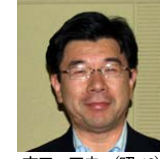
櫻井 克信 (昭48)



福田 淳一 (昭48)



本橋 造道 (昭48)



吉田 正史 (昭48)



山岡 富美子 (昭50)



伊藤 正朗 (昭50)



内田 敬子 (昭50)



小野村 敏之 (昭50)



木間塚 栄 (昭50)



斉藤 浩史 (昭50)



坂本 輝雄 (昭50)



篠原 健次 (昭50)



清水 信行 (昭50)



関口 洋一 (昭50)



高木 恒英 (昭50)



浦崎 章夫 (昭50)



鶴町 利地 (昭50)



花上 克宏 (昭50)



樋口 利男 (昭50)



藤田 加奈子 (昭50)



古林 孝夫 (昭50)



星川 美代子 (昭50)



前野 幸彦 (昭50)



渡邊 奈保美 (昭50)



吉田 知雅子 (昭52)



櫻井 成一郎 (昭55)



鈴木 貴美子 (昭55)



酒井 学雄 (昭56)



伊東 明彦 (平5)



山本 厚 (平7)



西尾 広介 (平10)

その他

総会・懇親会費を振替済み  
で当日欠席された方  
井坂 公明 (昭48)  
島田 洋一 (昭55)



平成19年度 東進会  
総会・講演・懇親会 出席者名簿

( )内: 卒業年次など

来賓



茨城県東京事務所所長  
林 孝 様



土浦一高教頭  
岡崎 尚俊 様(昭41)



進修同窓会会長  
平田 公敏 様(昭24併)

会員及び賛同者  
敬称略  
角丸写真: 当番幹事



茂在 寅男 (昭6)



片岡 弘安 (昭16)



繁住 敏郎 (昭20⑤)



寺内 昭一 (昭20⑤)



大津 一郎 (昭20④)



大塚 保 (昭20④)



狩谷 孝雄 (昭20④)



栗栖 三男(昭20④)



栗栖 恵子(令夫人)



坂井 祥司(昭20④)



酒寄 和郎(昭20④)



白井 昭雄(昭20④)



高野 孝(昭20④)



田中 和夫(昭20④)



廣瀬 琢朗(昭20④)



松尾 一郎(昭20④)



山口 進(昭20④)



渡邊 光夫(昭20④)



妹川 和夫(昭23)



山藤 和夫(昭23)



木島 幸夫(昭24)



酒寄 恵行(昭24)



砂山 嘉幸(昭24)



入江 俊昭(昭27)



川村 博通(昭27)



坪井 洋(昭27)



平根 健(昭27)



池澤 卓(昭28)



砂川 憲二(昭28)



池田 三男(昭29)



大野 金一(昭31)



菊地 清(昭31)



五頭 隆治(昭31)



酒井 隆二(昭31)



坂本 善之(昭31)



高野 久弘(昭31)



田崎 秀男(昭31)



田村 恒(昭31)



露木 修(昭31)



中村 信秀(昭31)



蓮 幸治(昭31)



水越 勝雄(昭31)



山田 晴康(昭31)



山本 嘉子(昭31)



渡辺 隆(昭31)



阿部 尚光(昭32)



伊藤 実(昭32)



服部 琥雄(昭32)



沼里 征二(昭33)



菊田 佳幸(昭36)



若山 宏(昭36)



北川 正之(昭37)



林 幸子(昭37)



矢口 照雄(昭37)



菊込 慎二(昭38)



中島 稯(昭38)



廣澤 義邦(昭38)



雨貝 二郎(昭39)



片岡 函彦(昭39)



鈴木 達(昭39)



瀬戸 節子(昭39)



山田 忠敬(昭39)

平成19年6月16日改正

## 土浦一高東進会規約

進修同窓会東京支部規約(昭和63年11月5日制定)の全部を次のように改正する。

### 【名 称】

第1条 本会は、茨城県立土浦第一高等学校進修同窓会(以下「進修同窓会」という)の東京支部として土浦一高東進会と称する。

### 【目 的】

第2条 本会は、進修同窓会と緊密な連携のうえ、会員相互の親睦提携を図り、かつ、母校の発展に協力することを目的とする。

### 【事務所】

第3条 本会は、事務所を東京都内に置く。

### 【会 員】

第4条 本会は、下記の者で、東京都内に居住するもの又は東京都内に勤務し若しくは東京都内に事業所を有し、かつ、神奈川県、埼玉県若しくは千葉県内に居住するもの(他の支部に所属する者を除く)で組織する。

(1) 茨城県立土浦中学校、茨城県立土浦第一高等学校及びその併設中学校(以下「母校」という)の卒業生

(2) 母校に在学した者で、同期の会員が推薦し役員会の承認を得た者

2 会員は、転居、転勤、退職、事業所閉鎖などにより、前項の要件を満たさなくなっても、引き続き会員となることができる。

### 【役 員】

第5条 本会に次の役員を置き、役員は、当該各号に定める職務を行う。

- (1) 会 長(1名) 本会の業務を総理し、本会を代表する。
- (2) 副会長(若干名) 会長を補佐し、会長に事故あるときは会長が欠けたときは予め会長が指定した順序によりその職務を代行する。
- (3) 顧 問(若干名) 会長の相談に応ずる。
- (4) 常任顧問(若干名) 常時、会長の相談に応ずる。
- (5) 監 事(2名) 本会の会計を監査する。
- (6) 幹事長(1名) 会長及び副会長を補佐し、一般事務の執行を統括する。
- (7) 副幹事長(若干名) 幹事長を補佐する。
- (8) 常任幹事(若干名) 幹事長及び副幹事長を補佐し、企画、広報等の一般事務を分掌する。
- (9) 会計幹事(1名) 本会の会計の事務を処理する。
- (10) 各回幹事(各回(各卒業年次)若干名) 同期会員間の連絡及び本会との連絡にあたる。

### 【役員を選任】

第6条 本会の役員は、次の各号に定めるところにより選出する。

- (1) 会長、副会長、監事及び幹事長は、会員の中から総会で選出する。
- (2) 顧問及び常任顧問は、本会に功労のあった者の中から総会で選出する。
- (3) 副幹事長及び常任幹事は、会員の中から会長が委嘱する。
- (4) 会計幹事は、常任幹事の中から会長が委嘱する。
- (5) 各回幹事は、各回の会員が互選する。

### 【役員任期】

第7条 役員任期は2年とし、再任を妨げない。補充役員任期は、前任者の残任期間とする。

### 【総 会】

第8条 本会は、年1回総会を開催する。

2 総会は、会長が招集する。

### 【役員会】

第9条 役員会は、役員により構成し、必要に応じ会長が招集する。

### 【委員会】

第10条 本会に次の常置委員会を置き、各号に定める職務を行う。

(1) 企画委員会 本会の事業、行事等の企画

(2) 編集委員会 会報「東進」等の編集

2 本会は、必要があるときは、役員会の決議に基づき、特別委員会を設けることができる。

3 委員は、会長が選任し、その任期は2年とする。

4 委員会の運営方法については、役員会において定める。

### 【当番幹事】

第11条 毎年度交代制により総会の企画、運営等に当たるものとして当番幹事を置く。

### 【会計年度】

第12条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

### 【経費の支弁】

第13条 本会の経費は、会員の年会費、総会等会費及び寄付金をもってこれに充てる。

2 年会費は、3,000円を基準とし、物価の変動等を勘案して役員会で決定する。

3 総会等会費は、開催の都度、役員会で決定する。

### 【予 算】

第14条 本会の収支予算は、会長が役員会に諮って編成し、総会の承認を得なければならない。

### 【決 算】

第15条 本会の収支決算は、幹事長が役員会に諮って作成し、監事の監査を経たうえ、総会の承認を得なければならない。

### 【会 報】

第16条 本会は、会報「東進」を年2回発行する。

2 会報は、発行前に会長の承認を得なければならない。

### 【ホームページ】

第17条 本会は、インターネットのホームページ「東進」を運営する。

2 ホームページの運営管理者は、会員の中から会長が委嘱する。

### 【名誉称号】

第18条 名誉会長その他本会が付与する名誉称号については、役員会において定める。

### 【表 彰】

第19条 本会の名誉を著しく高揚した者、本会のため功績顕著な者に対しては、役員会の議決を経て総会の席にて表彰する。

### 【規約の変更】

第20条 この規約の変更は、総会出席会員の3分の2以上の同意を得なければならない。

### 附 則

この規約は、平成19年6月16日から施行する。



### 5月12日 新緑の奥多摩に遊ぶ

第105回謳粹会 澤乃井「ままごと屋」  
篠田謳粹会会長が脳梗塞のため不参加

この記事は、露木修氏(昭31卒)が執筆し、参加会員等にメール連絡或いは印刷配布された『謳粹会』の記事から、その主要部分を引用転載したものである。

青梅線御嶽駅を降りると、爽やかな早月晴れである。駅の出口の露天の店では、「山葵菜」・「しいたけ」・「冷やし完熟トマト」などが売られており、奥多摩の霊気があたり一面に漂っている。

もう、既に渡邊光夫さん達が集まっていた。しかし、謳粹会会長で本日の立役者、篠田康さんの姿が見えない。聞けば、脳梗塞で入院したとのこと、監督不在、寂しい限りである。早くの快癒を祈念して、最初の目的地「玉堂美術館」に行く。

巨匠、川合玉堂の15歳頃の写生、そして、修練のためのスケッチ、古き良き時代の風景画等。

感動で俗気が抜け、素晴らしい食事会を楽しむ態勢が整う。

美術館を後にして、多摩川の溪流を眼下に、川沿いの道を「ままごと屋」に向かう。道端には「ヒメシヤガ」・真つ白な「カラー」・「シラン」等がやさしい日差しの下に咲き乱れている。

「奥の細道」で芭蕉が今の郡山市周辺で、名花「花かつみ」を捜し求めたそうであるが、一説には、この「ヒメシヤガ」が、その「花かつみ」ではないかといわれている。ところで郡山市ではそれにちなんで、「ヒメシヤガ」を市の花にしているそうである。

食事会は渡邊光夫さんの挨拶と乾杯で始まる。そうそう、渡邊さんが手造りの「新緑の奥多摩に遊ぶ」の幟が披露されました、ご努力に感謝。



新緑の奥多摩 沢井付近



ままごと屋の庭園にて

大野東進会会長より、篠田謳粹会会長の病状が報告され、一瞬、肅然となるが、早い全快を期待する声があちこちから聞こえてくる。

料理は美酒・澤乃井を生む名水「岩清水」を使って作られた「豆腐」や「ゆば」が特に印象に残る。もつとも、筆者は名酒に酔いしれて、料理についてとやかく印象を紹介する資格に乏しいようである。

酒はさすが、季節限定の「涼し酒」・「さわ音」が爽やかで、5月の例会にぴったりである。会食後は小沢酒造の酒蔵見学、名酒の源泉「岩清水」を敬虔な気持ちで見学、幹事より澤乃井お酒をお土産に有難ういただき散会する。

#### 謳粹会の各月開催実績

- 第104回 平19・4・7(土) 参加者23名  
土浦・霞月楼 日本料理
- 第105回 平19・5・12(土) 参加者20名  
奥多摩 御嶽駅、沢井駅付近の散策
- 第106回 平19・6・21(木) 参加者14名  
沢井・ままごと屋 豆腐料理
- 第107回 平19・7・13(金) 参加者15名  
代々木・カオチップ タイ料理
- 第108回 平19・8・9(木) 参加者18名  
海老原氏のビデオで故人を偲ぶ会  
高田馬場・宴 ビーフシチュー他
- 第109回 平19・9・13(木) 参加者21名  
銀座・竹富島 沖縄料理  
西新宿・北海道 北海道料理

#### 平成19年度東進会ゴルフ大会

東進会・地元対抗のゴルフ大会は、去る5月5日(土)新緑も目映い東筑波カントリークラブで行われました。このコースは、東進

会の大野金一会長のメンバーコースで、距離があり、茨城県内でも一、二を争う難コースです。

当日は五月晴れの正にゴルフ日和の爽やかな一日でした。参加者は、昭和31年卒業生を中心に、女性3名を含み、合計24名でした。



ゴルフに参加された24名の皆様

新ペリア方式による競技結果は、優勝が昭和31年卒業の山内忠夫さん、準優勝は昭和33年卒業の田村武夫さん、三位は昭和29年卒業の池田三男さんでした。また、ベストグロス賞は昭和31年卒業の飯泉治男さんで、グロス91というスコアでした。ドラコンも昭和31年卒業の大野金一会長と昭和33年卒業の田村武夫さんが獲得し、ひと回り以上若い昭和44年卒業の岡崎孝宜さんや私にはまだまだ追いつけない体力がある方ばかりでした。

表彰式を兼ねた親睦会は、ゴルフに対するそれぞれの思いを発表する場となり、楽しい雰囲気になりました。

(企画担当理事 昭和45年卒業 鈴木良治)



メタボおじさんのネパール・トレッキング奮闘記(第2回)
ネパール・ヒンズー教式結婚式

昭和41年卒 高山 了

第1回のネパール・トレッキング奮闘記は如何でしたか?興味をもたれた方は、迷わず今秋行かれる事をお勧めします。心身共に元気になり、積年の垢が洗い落とされ、新鮮な人生が再びおくれますよ。11月からの乾季がネパールのトレッキングシーズンです。

さて第2回目は「ヒンズー教式結婚式」。まずは何故59歳の登山経験ゼロのメタボおじさんが、縁も所縁も無いネパールで突然トレッキング、しかも結婚式に参列とは?から始めます。それは昨年10月、北海道へ嫁いだ次女からの電話が始まりでした。「裕美ちゃん(次女の義妹)が結婚するんだけど結婚式に出席できない?」「おめでと。う。しかし俺が出て良いのかな?遠い親戚だよ」「裕美ちゃんも是非出席して」「了解。処で場所は東京?」「ネパールだつて」「え!何でネパールなの?」「進也さん(結婚のお相手)のお母さんの記念の場所でありたい」「お母さんて・誰?」「田部井淳子さん」「え!あの登山家の?」「そうよ。結婚式の後、皆でトレッキングするんだつて...」と言うことで、退職後4ヶ月が経ち、そろそろ暇を持って余り始めた頃、絶妙のタイミングでのお誘い。高山病など思いもよらず、喜び勇んで、裕美さんの御両親と共に親戚として結婚式とトレッキングに参加する事になりました。

それでは、ヒンズー教の結婚式体験記を始めます。昨年11月22日(良い夫婦の日・ご存知ですか?)に、ネパール中部ヒマラヤの景勝地、ポカラのリゾートホテルで、田部井進也さんと裕美さん(旧姓・村山さん)の結婚式が現地のヒンズー教式に則り厳かに執

り行われました。ホテルの中庭に、四方をバナナの木の柱で支えられ、マリーゴールド等の花で色鮮やかに飾られた特設のマンドウク(ヒンズー教の祭壇が設けられ、日本からの30名と現地関係者を含めて40名程が参列しました。



マンドウク(ヒンズー教の結婚式用祭壇)
中心部は土で固められ護摩を焚く組木があり、色がついた粉や花びらで曼荼羅文様が描かれている。1回だけ使用。手前の二人はヒンズー教司祭。

本来、ヒンズー教の結婚式は大変派手で、最低でも3日3晩は一族郎党あげて行われる一大イベントだそうです。今回は、ハイライト版として主要な儀式のみが行われました。まず、ヒンズー教の正装に身を包んだ新郎新婦の登場です。最初に行われるのが「ブジヤ・ガルネ(祈祷をあげる)」と言う儀式です。



ブジヤ ガルネ(祈祷をあげる)
像の顔をしたヒンズー教の神様「ガネシュ」に、新郎(ヴォラ)と新婦(カンニヤ)が二人の幸せな結婚生活を願って祈祷します。

その後、新婦の世界の中心が新郎になったこ

とを表して、新婦が新郎の周りを聖水で清めながら一周します。続いて「ティカ ラガウネ(ティカをつける儀式)」が行われます。「ティカ」とは、ヒンズー教で神のご加護を祈って米と赤い粉を混ぜ合わせたものを額につけること。インド人も額に良くつけていますね。



ティカ ラガウネ(ティカをつける儀式)
新郎、新婦がお互いの健康や幸せな結婚を願ってティカを額に付け合います。参列者も全員額に赤いティカをつけて参列します。

次に結婚の成功を祈って「ソエンパール(首輪の交換)」が行われます。



ソエンパール(首輪の交換)
新郎新婦が、草と銀糸の刺繍で作られた首輪をお互いに首に掛け合います。これも結婚の成功を祈って行われる儀式。

そしていよいよ、結婚式の見所の一つ「カンニヤ・ダン(新婦の授与)」。これは新婦の父母が娘を新郎に譲り渡すという儀式です。新婦の父から新郎に対し「今まで自分の命同然に、大切に育ててきた娘をあなたに授けます。大切にして下さい。」と言う言葉がかけられ、

新郎の手に新婦の手を重ね合わせます。これは日本の仏式や神前結婚式ではありませんが、キリスト教では見所の一つ。パーズンロードを父が新婦と腕を組んで歩いて、新郎に渡すのと似ています。続いて、お金を巻き込んだ白い布を新郎新婦の首に片端ずつかけ、二人の心が一つになったことを表す「ラガウン・ガトオ(布を首の周りに巻きつける)」、次に「チュウラ」という干し飯を、マンドウク(祭壇)で焚き続けられている護摩の中に投げ入れる「ラヴァ・ウムニ」が行われます。

結婚式のクライマックスは「シンドウル・ラクネ」という儀式です。ヒンズー教において結婚した女性の証である「ポテ(ビーズで作った首飾り)」と「シンドウル(髪の毛の分け目につける赤いティカの粉)」を、新郎から新婦に施します。これで、晴れて二人が正式に結婚した事になります。1時間にわたる儀式が終わり、2人の新たな門出を祝うマリーゴールドのフラワーシャワーの中、新郎新婦が退場。



シンドウル ラクネ
晴れて正式な夫婦になった二人。髪の毛の分け目に赤いシンドウル(伝統衣装時だけ)を着けた女性は既婚者である事が一目で分かる。

以上、結婚式当日、司会進行を勤められた(株)西遊旅行の宮加奈子さんの記録を元に紹介しました。夕焼けが美しい頃、広いホテルの中庭で披露宴が始まりました。現地人の楽団が音楽を奏でる中、お色直した新郎新婦が登場。結



婚式は明るい色のトピー(男性が被る緑なしのネパール帽)とダウラ・スルワール(ネパール男性の伝統的な正装)の新郎と、ネパール色と言われる赤いサリー姿の新婦。今度は一転してシックな衣装。すっかり仲の良い夫婦姿が板についていました。



**披露宴でお色直した新郎新婦と筆者**  
唯一「そのまま平服」で参列の筆者。皆さん持参の着物やサリー、式服でパツチり決めています。頭のトピーが唯一の救い(\*。\*)。

夕映えの中、中庭の周囲では各種料理が作られている。お祭りや結婚式などの特別なイベントの時は、豊富な種類の肉料理が沢山用意される。冷蔵庫が普及してきている今では、珍しくもなくなくなったが、以前は、肉料理はその為にヤギや鶏を屠って料理する特別のご馳走だった。日本でも各地の郷土独特の「ハレ」の日の料理というのがあったが、同じ意味合いの料理だ。牛はインドと同様、神聖な動物なので決して食べない(ことになつている)。一般に食用になるのはヤギ、鶏、羊、水牛。勿論ネパール人の主食ダルバート(豆のスープと炊いたご飯)やタルカリ(野菜のカレー)、モモ(餃子)もある。そして祝いや儀式の席では欠かせない、日本で言えば「おはぎ」のような感覚のシエルトイ(ドーナツの様な物)を大きな鍋で揚げているのは壮観。そして勿論御酒ですね。ネパール産ビール(エベレスト他)に、何と云ってもネパールと言えはロキシー(穀物から作る蒸留酒)。そして田部井一家の心の籠った日本から持参の昆布巻き、黒豆や日本酒が祝いの

席を盛り上げる。皆さんのお祝いの言葉やネパール人スタッフの挨拶も一巡する頃は、すっかり暗くなり周囲の焚き火が雰囲気盛り上げ、皆さん上機嫌。そしてネパールと言えは「レッサンフィリリ」。お約束のネパール民謡と共に全員で踊り、楽しい一夜でした。グッスリ眠って、翌朝いよいよトレッキングでアンナプルナ山系山麓の村に出発(詳細は前回)。



**レッサンフィリリで踊る**  
軽快なネパール民謡にあわせ、楽しく踊る参列者。レッサンフィリリは何処でも踊られるネパール民謡の定番曲。

以上、田部井進也・裕美さんのヒンズー教式結婚式をご紹介します。西遊の宮さんによれば、ポカラのホテルに専用の祭壇を設置してやるのは初めてではないかとの事。ネパールは貧富の格差が日本の想像以上で、ごく僅かの富裕層(そのリッチさは日本人の想像を超えるとか)は広大な自宅敷地内に祭壇を設営して、千人以上の招待客で3日3晩の大宴会。一般庶民でも3百人位、極貧層でも(その貧しさはこれまた日本人の想像を絶するが)百人程は集まってやる、一家挙げての人生最大の一大イベントなのだそう。庶民層は、式は自宅に司祭や僧侶がきてやったり、近くの寺院でやるようです。祭壇はいずれにしろ1回限りで使用後はそのまま捨てられます。1回限りの祭壇で最高何百万円もかけるお金持ちもいるそうで、どれだけ大事な儀式かが分かります。因みにネパールのGDPは1人当たり

僅か294ドル(3万円強04年統計)です。

ネパールの庶民の結婚式はどんな行事があるのでしょうか?ネパール通によると、とにかくネパールの結婚式は「派手」「音楽隊」「3日3晩」だそうです。ネパールにいと結婚式が随分多いように感じられるそうです。人口は2500万人で日本の五分の一と少ないのに何故結婚式が多く感じられるか?それはネパールでは、結婚式パーティーは2度やる。最初が新婦側の主催で次が新郎側主催。結婚の儀式は最初、新婦宅に僧侶や司祭が来て始まる。内容は正しく前半に詳述した順番で、その後は宴会。夜が早いネパールにしては珍しい事だが、時には深夜1時過ぎでもドンチヤン騒ぎ。翌日新婦の家から新郎の家へ移動するのがこれまた一騒動。一例を紹介すると、前の晩のパーティー疲れも取れた午後、早くも新婦自宅前にはマリーゴールドの花輪や薔薇の花で飾りつけられた車が道路を占拠。近くでは20人近くの楽団の予行演習が始まり早くも交通渋滞を引き起こしている。



**カトマンズで遭遇した結婚パレード**  
クラリネットのバンマスを中心にバスドラム、小太鼓、トランペット等の赤ジャケット楽団が先導。皆踊りまくって路上は阿波踊り状態で通行困難。

パレードは赤いジャケットで統一された楽団を先頭に、新郎の供物を担ぐ人、新郎新婦や両親を乗せた車、参列の来賓100名位がゾロゾロと続く。参列者の一人が踊り始めると、すぐ数人が踊り始め、沿道の子供がはしゃぎま

くる。たちまち「踊る阿呆に見る阿呆、踊らにヤンソン」状態。徒歩10分の距離を1時間掛けて移動するので交通渋滞。新郎宅でまたドンチヤン騒ぎ。あまりに派手なので毎日結婚式をやっている様に感じるそうです。

何故参列者が多いのか?それは結婚式に呼ばない事は、一族として認めないという大変な事態になるからだそうです。又、花嫁は新郎の両親はもとより兄弟にも、自動車とか電化製品とかあれこれ持参。娘の多い父親は経済的に大変。日本では愛知県とか派手な結婚式や持参品がありますが、その比ではない様です。

一方、トレッキング中に会った山奥の皆さんは、学校も満足に通えず電気はない、水の確保も苦労する極貧状況でした。それでも結婚式は一族や部落の全員が集まって、貧しくともそれぞれに応じた(心の)豪華さで祝い楽しむんでしょね。その方が昨今の日本のイベント屋さんによる形だけの結婚式よりは、本来の「家族」「命を繋ぐ」「部落共同体」をきちんと守っているなと思えます。そう言えば日本でも昔はそうだった。庶民の冠婚葬祭は自宅でもやるものだった。何時から業者が仕切るようになったのか?どうも高度成長期の団塊世代からではないのだろうか?急速な経済成長は意味のある伝統的な慣習も変えてしまい、やがては自らのアイデンティティも失ってしまふ危険があるなと考えさせられました。不易とは永遠の真理、流行とは一時たりとも停滞しない変化。「不易流行」は本当に難しいものだなと考えさせられたネパールでのトレッキングでした。

尚、ネパールはインドと同様にカースト制度が健在。結婚でも同じカースト内なら問題はないが、カーストが異なると悲劇が起こる。特に男性が下位のカーストだと一大事だそうです。周囲の反対で破局になる事が多い様です。ただ、最近ではインターカースト(カーストを越えた)の恋愛結婚も年々増えてきているそうです。

半了のささやき (第4回)

高山寺 半了

クオリティ・ノッツ・クオンティティ

前回の「寓話ウサギとカメ」目標が行動を決める」は如何でしたか? 今度はどうせ「アリとキリギリス」だろうと思っていた貴方は流石、只者ではありません。ならば**QOL**ときたらどうしますか? 「クオリティ・オブ・ライフ」人生の質」。そうです、今回は格調高く「**質**」クオリティについて囁いてみます。そこで今回のお題は「QUALITY NOT QUANTITY」。これは実は、数十年前の栄光華やかなりし頃の米国海兵隊員募集ポスターのキャッチフレーズです。「**量より質**」とは、流石に世界最強・精鋭の米国海兵隊ですね。

「安からう悪からう」から脱却し「技術立国」を目指し、デミング博士の来日指導から始まり、「TQC運動」「ZD運動」と米国直輸入の手法で、国を挙げて熱心に品質向上活動を展開。その結果「Japan as No.1」となり、トヨタの「カイゼン」「カンバン」は世界共通語になり、高度経済成長を實現。企業戦士として第一線でこれらを担った東進会の先輩諸氏には懐かしくも輝かしい時代でした。これは偏に日本人の特質を活かし「**質の向上**」を目指した結果でした。

しかし「**質より量**」「大きい事は良い事だ」とバブルに踊らされた90年代以降、日本社会の価値観は一変。今や連日「**きしむ品質**」のオンパレード。世界一の自動車業界は、三菱から始まりトヨタ、ホンダと大リコール、家電業界もソニーに始まり三洋、松下とリチウム電池の発熱、回収騒動、そしてパロマ、リンナイ、松下(年末年始の回収告知CMは前代未聞)、三洋と続く湯沸かし器、温風機騒動等々。製品品質の低下だけではないようです。大学全入時代から10年、少子化、理工系離れと合間って、新卒技術者の「**質の低下**」は

危機的状況とか。三洋等の同族会社や、ホリエモンを初め、グッドウイル等の怪しげな新興企業経営者、雪印や不二家の期限切れ乳製品やミートホープ偽肉混入社長と経営者の質の低下は目を覆うばかり。IR西日本の尼崎脱線事故やエレベーター事故、中越沖地震で露見した原発の安全性不信と日々の生活も危険と背中合わせ。次々明らかになる年金の社保庁に代表されるお役所の隠蔽体質。そしてあの今や懐かしい姉歯耐震偽装に始まり、関西テレビ「あるある大辞典」やマスコミのデータ捏造の続発。本場に「何でもあるある大日本」。極め付きは国会議員。そもそも「**国会議員は質より量の存在**」。どんな立派な議員でもアホ馬鹿議員でも国会では所詮一票。大鈍感力の美しい国の首相や絆創膏大臣の様な政治家。身体検査では「政治と金」は無理。今や世間では人間ドック(NMR)は常識。政治家も、どす黒いお腹や物忘れの激しい脳の輪切り検査は必須。どうも根幹は「政治の質」の劣化のようですね。

いや〜すいません。何時もは冷静沈着な半了も、今年の夏の暑さには参った。連日35℃突破。つか〜となつて囁くどころか怒りのオンパレード(笑)。で〜本題は何でしたっけ? そうそう、格調高く「**質**」についてでしたね。そこで今回のささやきは「**質の追及に限界なく、量の追求には未来はない**」。ワイキューブ代表安田住生の主張だが、これはまさに企業経営だけでなく人生においても然り。無いものを嘆かず求めすぎず、在るものに感謝し深く極めるのも「**QOL**」人生の「**質**」を高める為には必要なのではないでしょうか。

処で、昨今流行の「**品格**」を皆さんはお持ちでしょうか? そもそも「**品格本**」の元祖は、05年11月初版の新潮新書、藤原正彦著「**国家の品格**」。この企画者は東進会会員、横手一郎先輩(昭和31年卒)のご次男、横手大輔さん。最近のヒットはPHP新書「**女性の品格**」。実は著者板東真理子さんの旦那と半了は昨年まで同僚。半了の周囲には何故か「**品格**」のある方が多いのだが、当の半了はどうも「**質**」にも「**格**」にもとんと縁が無く「**失格(質格)**」。おあとがよろしい様で(笑)。

いんふおめーしょん

進修同窓会会長に平田公敏氏

2頁の会場風景で写真紹介しましたが、今年4月8日の総会で平田公敏氏(併設中2回卒)が新会長に選出されました。

16年の長期にわたり会長を務められ、特に進修同窓会百周年事業に貢献された幡谷祐一氏(中40回卒)が高齢と仕事の多忙を理由に中途で辞任された後を引き継がれたものであります。

平田氏は、東大を卒業後、発足当時の税理士資格を取得して土浦で開業、日本税理士連合会会長を務めるなど多方面で活躍されております。

土浦一高OBゴルフ会の第3回大会

本大会は各卒業年次をまたがる選歴以上のOBが参加するゴルフ大会であります。

本年は第3回大会となりますが、東進第33号に一部記載のとおり、10月19日(金)に稲敷市のザ・インペリアルカントリークラブで昭和41年卒以前の同窓生が参加して開催されます。総参加数を170名に抑えるほか年次ごとの制限もあります。

これから参加を希望される方は、各卒業年次の世話役などを紹介いたしますので左記あて、ご連絡ください。

中村信秀様 042-755-3783

わが茨城(ROSE)に東進会紹介

大野会長は、茨城県人会連合会の会報「わが茨城(ROSE)」104号(平成19・7・10発行)に寄稿し、昭和28年頃からの東進会の発展経緯と、年1回の総会・ゴルフ大会や毎月の謳絆会が100回に及んだことなど東進会の活動現況を紹介しました。

なお、県人会連合会加盟の東進会以外の在京6高校同窓会についても、それぞれ同様に紹介されております。

大野会長が事務所を銀座に移転

これまで事務所が所在していたビルの建替えに伴い、法律事務所は、平成19年9月1日、麹町から左記に移転しました。

〒104-0061 東京都中央区  
銀座4-10-6 銀料ビル7階  
TEL 03-3248-2540  
FAX 03-3248-2544

編集後記

今回は総会関係記事が改正規約を掲載するなど多くなったため、会報「東進」を通常の8頁から異例の12頁構成としました。

受付における個人写真の撮影につきましては、今後よろしくお願い致します。

会場撮影、ビデオ収録と講演録音を分担された沼里様、高山様と当番幹事の皆様、お疲れ様でした。本号の編集に不可欠の資料となりました。

その他の原稿などについても当番幹事はじめ多くの皆様からのご協力ご支援、有り難うございました。

次の東進第35号は、平成20年4月20日発行を予定しております。

**東進会 平成20年度 総会**  
**平成20年6月21日(土)**  
**12:00~**  
**学生会館**  
**当日の計画に組み入れるよう希望します**